

第52回東北生理談話会

会 期：令和2年11月21日（土）

会 場：Web開催（Zoom）

当番幹事：福島県立医科大学医学部細胞統合生理学講座 挟間章博

演 題 数：14題

参加人数：34名

日本生理学会東北地方大会（第52回東北生理談話会）を上記日程で初めてオンライン開催致しました。開催日当日は折しも日本国内におけるコロナ感染者数が過去最高（2500人超）を更新した日でもありました。本来であれば、2020年は東京オリンピックで盛り上がり、その余韻でオリンピック会場の一部がある福島県福島市で開催の予定でした。しかしながら、2020年の年頭より徐々に拡大を広めていったCOVID-19を起因とするコロナ禍により、2020年上半年は国内外を問わず様々なイベントが中止・延期されていました。今回の世話人である福島県立医科大学医学部細胞統合生理学講座（挟間章博教授）・同大学医学部システム神経科学講座（永福智志教授）は、当初、例年通りの現地開催予定で準備を進めていましたが、COVID-19の流行状況を鑑み、現地開催ではなくWeb開催に変更するという判断をいたしました。

談話会はZoomミーティングを利用したオンライン開催で、34名の参加者が集いました。オンライン開催は初めての試みであり、運営上の利点・欠点がありましたが、発表後の議論も現地開催同様に議論が交わされ、大きなトラブルもなく成功裏に会は終わったのではないかと思います。利点としては現地開催だと時間の制約のため参加できない方も自由に参加可能であったということ、欠点としてはやはりプレイクタイムの複数人による簡単な議論、談笑などの交流が困難であったことでしょうか。ひょっとしたらもう少し上手に運営できていると、このような交流の場も提供できたのかも知れませんが、今回は世話人の準備不足で交流の場までは提供できませんでした。また、今回は各発表の他に、運営企画として「各校におけるコロナ対策情報交換」の時間を設けました。各大学・講座で実習等を実施されるときに準備や実施時の変更点や工夫について紹介していただきました。多くの先生が感じておられる共通の思いは、「実習は実際に手を動かし、体験することである。」、また「遠隔講義でどこまで伝えることができるか。」ということだと感じました。如何に遠隔の手元で対面式の実習に近い体験、ライブ感を感じて貰えるかという点でご苦労されているように思いました。従来とは異なる新しい実習形式に取り組んでいかなければならないのかも知れません。

次回の当番幹事は弘前大学大学院医学研究科・保健学研究科にお引き受けいただくことになりました。（文責 福島県立医科大学医学部細胞統合生理学講座 小林大輔）

地方会抄録はウェブページ <http://physiology.jp/nisseishi/> に掲載させていただくことになりました。（Pt 2）p. 36～p. 39 をご覧ください。